

令和3年度事業報告

令和3年度一般財団法人狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下ご報告いたします。

令和3年度は、平成31年度から始まった第4期指定管理期間の3年目となりました。31年度終盤から続く、新型コロナウイルス感染症は終息せず、第6波にまで拡大し、貸館事業においても利用制限を付けて貸し出すなど多大な影響を受けました。また、9月1日からは約1年間に及ぶ大規模改修工事に入り、事務所も駄倉地区センター2階に移転、ホール等施設も休館となりました。そのため、施設利用状況、稼働率につきましては、利用が可能であった4月～8月までの数値になります。3年度の稼働率は、令和2年度の8月までと比較しますと、ホールが46.8%で20.6%増、展示多目的室が39.4%で11.1%増、リハーサル室が44.5%で24.7%増という結果となりました。稼働率増加の要因としては、2年度には2度の緊急事態宣言【4月7日（火）～5月25日（月）、1月8日（金）～3月21日（日）】に伴う臨時休館【3月28日（土）～5月31日（日）】があり、4、5月が全く稼働しない2か月となり、それと比較すると3年度は2度の緊急事態宣言【4月25日（日）～6月20日（日）、7月12日（月）～8月31日（火）】がありましたが、利用人数制限や利用時間短縮のご協力をお願いしながらも、臨時休館にはならなかったことが大きな要因です。また、9月からの大規模改修工事による約1年間の休館のため、秋の定期発表会を8月までに前倒しして実施するバレエ団体が多く、展示多目的室とリハーサル室も連動し、利用人数制限から楽屋として利用する団体が多くみられました。展示多目的室の単独利用では、宗教勉強会、骨董品鑑定会、能楽勉強会、女性向けファッション用品展示即売会は変わらず定期利用があり、リピート利用の安定化も維持しています。リハーサル室の単独利用では、舞踊、楽器、声楽の個人練習での利用が目立ち、これも新型コロナウイルス感染症の影響による集団練習ができないことからの需要だと分析します。この個人練習での利用は明るい材料となり得、稼働率アップとホール利用へ繋げる注目していくべき重要なポイントだと考えます。未だ新型コロナウイルス感染症の終息は見えませんが、リニューアルオープン後は、新しくなったエコルマホールの宣伝等を強化し、新規利用者の開拓への方策を練っていきたいと考えます。

なお、施設利用料金収入は約11,750千円で、前年度比1,010千円、9.4%の増、予算額と比較すると△874千円の歳入欠陥となっています。

次に自主事業ですが9月から大規模改修工事に入ったため、ホールでの自主公演は7事業8公演（共催3公演を含む）を実施し、9月以降の工事期間は市内の西河原公民館を借り2事業2公演を実施しました。主な事業の内容ですが、昨年度の緊急事態宣言の影響により中止、延期となった公演を実施しました。4月の定番公演の春風亭小朝独演会は1年振りに、平成31年度に実施予定だったエコルマ・アンサンブルは海外在住の出演者が一時帰国することが出来、無事に実施することができました。また、西河原公民館での事業は新型コロナウイルス感染症の増加が再び懸念されていたこともあり、有料公演ではなくホール会員を対象とした招待コンサート（応募制）として実施しました。なお、秋以降、入場者数の制限が一部、イベントの内容により緩和され100%入場可能になりましたが、年代の高いお客様が多いこと、ホール入場時の感染対策対応が万全に出来ないと判断し、引き続き50%対応としました。50%対応でも満席が難しい状況でしたが、熱心なお客様にご来場いただき、中止、延期続きであった出演者側にも喜んでいただきました。

なお、中止となった事業はふたつありました。ひとつは前年度より5月に延期をしたコンスタンチン・リフシツの公演で、海外からの入国制限のため来日の見通しが立たなくなり、中止となりました。首都圏8館での連携企画事業でしたので実現ができず、残念でした。もうひとつは、市内の障がい者施設へのアウトリーチ事業で、先方で感染症の陽性者が出たとのことで中止となりました。

支援型事業に関しては昨年度実施できなかった3団体のうち2団体が実施、1団体は日程調整が難しかったことから、翌年度に持ち越しとなりました。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだ色濃いですが、工事休館中も西河原公民館を活用しての事業、SNS等での情報発信などに努め、リニューアルオープンに向けての下地づくりの継続に努めます。